

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 26 年 7 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 7 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,962 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）1.1%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,844 円（伸び率 0.6%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,474 億円（伸び率 0.5%）、薬剤料が 4,478 億円（伸び率 1.3%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 587 億円（伸び率 20.8%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん1枚当たり 薬剤料	処方せん1枚当たり 薬剤種類数	1種類当たり 投薬日数	1種類1日当たり 薬剤料
実数	5,526 円	2.81 種類	23.1 日	85 円
伸び率（%）	+0.4	+0.4	+2.5	▲2.5

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,725 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）30 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 935 億円（伸び幅▲52 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 32 億円（総額 641 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,725 億円 （+30 億円）	21 循環器官用薬 （935 億円）	11 中枢神経系用薬 （641 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（500 億円）
0 歳以上 5 歳未満	36.8 億円 （▲2.1 億円）	44 アレルギー用薬 （14.7 億円）	61 抗生物質製剤 （10.5 億円）	22 呼吸器官用薬 （5.0 億円）
5 歳以上 15 歳未満	73.9 億円 （▲0.6 億円）	44 アレルギー用薬 （32.0 億円）	61 抗生物質製剤 （12.2 億円）	11 中枢神経系用薬 （12.2 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,310 億円 （▲17 億円）	21 循環器官用薬 （289 億円）	11 中枢神経系用薬 （283 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（185 億円）
65 歳以上 75 歳未満	943 億円 （+35 億円）	21 循環器官用薬 （285 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（148 億円）	11 中枢神経系用薬 （113 億円）
75 歳以上	1,361 億円 （+14 億円）	21 循環器官用薬 （359 億円）	11 中枢神経系用薬 （232 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（163 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,844 円（伸び率 0.6%）で、最も高かったのは石川県（11,077 円（伸び率▲1.4%））、最も低かったのは佐賀県（7,537 円（伸び率 1.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福岡県（伸び率 2.5%）、最も低かったのは愛媛県（伸び率▲1.8%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 587 億円（伸び率：20.8%、伸び幅 101 億円）（→P.36）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	55.1%	+8.8%
薬剤料ベース	13.1%	+2.1%
後発品調剤率	59.4%	+6.1%
（参考）数量ベース（旧指標）	36.4%	+6.0%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.36~37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+20.8%	+31.4% （15 歳以上 20 歳未満）	+9.0% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.1%	14.0% （65 歳以上 70 歳未満）	8.3% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	520 億円 （+84 億円）	21 循環器官用薬 （143 億円）	23 消化器官用薬 （100 億円）	11 中枢神経系用薬 （60 億円）
0 歳以上 5 歳未満	4.44 億円 （+1.20 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.64 億円）	61 抗生物質製剤 （1.25 億円）	44 アレルギー用薬 （0.80 億円）
5 歳以上 15 歳未満	7.33 億円 （+1.84 億円）	44 アレルギー用薬 （2.95 億円）	61 抗生物質製剤 （1.85 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.22 億円）
15 歳以上 65 歳未満	175 億円 （+22 億円）	21 循環器官用薬 （44 億円）	23 消化器官用薬 （29 億円）	11 中枢神経系用薬 （24 億円）
65 歳以上 75 歳未満	136 億円 （+24 億円）	21 循環器官用薬 （46 億円）	23 消化器官用薬 （26 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（16 億円）
75 歳以上	197 億円 （+35 億円）	21 循環器官用薬 （52 億円）	23 消化器官用薬 （44 億円）	11 中枢神経系用薬 （27 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	871 円	1,219 円（岩手県）	699 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+20.2%	+30.0%（秋田県）	+13.1%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.1%	68.9%（沖縄県）	45.6%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.1%	17.2%（鹿児島県）	10.2%（徳島県）
後発医薬品調剤率	59.4%	72.0%（沖縄県）	52.4%（徳島県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	36.4%	47.9%（沖縄県）	30.6%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成26年7月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。